

福島・南相馬の児童ら33人

手品や音楽で交流

中井町



東日本大震災で被災した福島県南相馬市の小学生と親計33人が3月28日から31日まで中井町に滞在し、観光や音楽などを通じて住民とつかの間の交流を楽しんだ。

企画したのは、県内で被災者支援に取り組んでいるNPO法人「こども達に未来をin湘南」(羽田一郎理事長)。これまでは活動拠点の藤沢を中心に被災者を招いてきたが、羽田理事長の知人の山口順子さん(59)＝中井町井ノ口＝らが受け入れに協力した。

到着した28日夜は、地元住民らが振る舞った夕食や手品同好会のメンバーによる芸を楽しみ、移動の疲れを癒やした。29日は藤沢へ足を延ばし、新江ノ島水族館などを見学。30日は住民が下井ノ口児童館で懇親会を開き、ハーモニカ演奏などでもてなした。

南相馬市小高区に住んで

手品などのもてなしを楽しむ被災者

いたパート女性(35)は小学5年の長女と小学1年の長男と参加。現在は同市鹿島区の仮設住宅で生活しており、「気分転換になる。福島を出て何も心配がない生活をした方がいいのかなとも思う」と実感を込めた。同市原町区の秋山友祐さん(11)は「楽しかった。また参加したい」と喜んでた。山口さんは「この思い出を復興のパワーに変えてほしい」と願っていた。

(武藤 龍大)

＝下井ノ口児童館